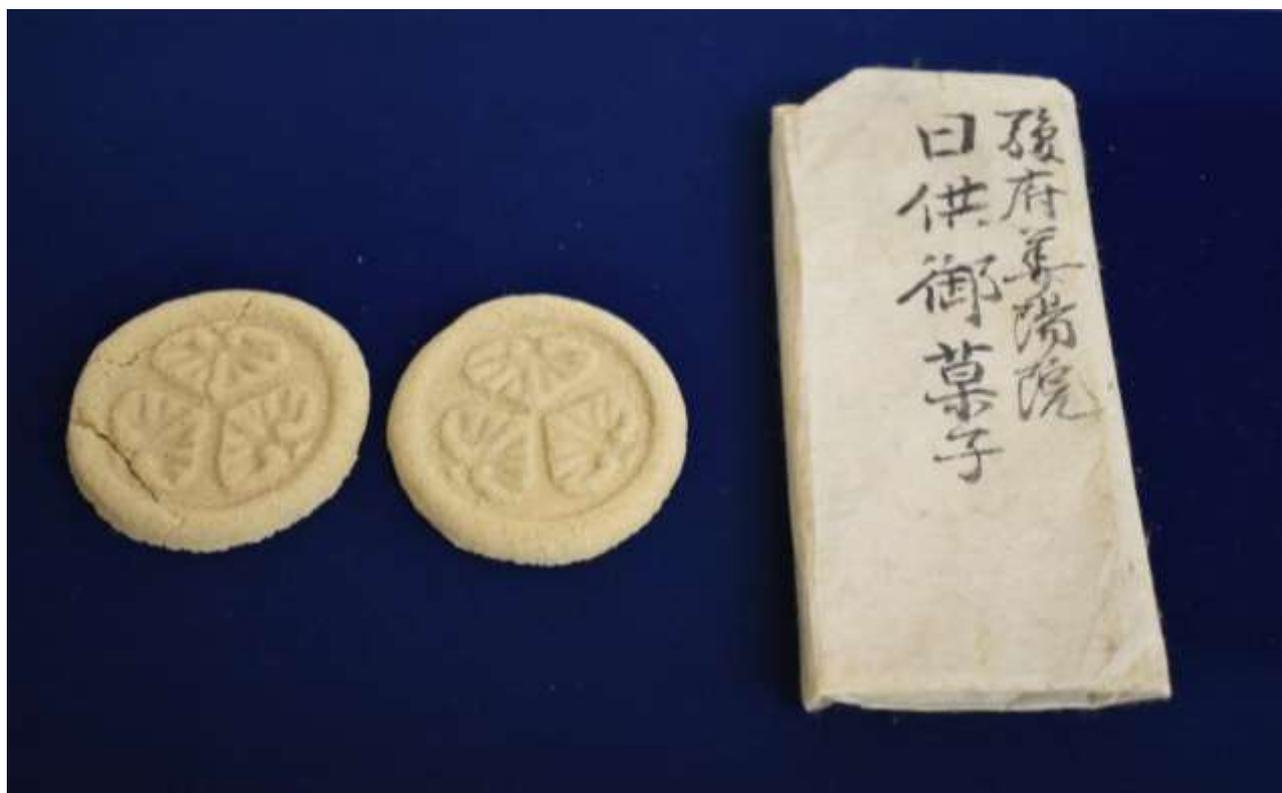


三原市歴史民俗資料館

三原のお宝 歳出しニュース

— 第 62 号 —

現代に残る 最古の和菓子！？ その1



展示中の干菓子とその包み紙です。

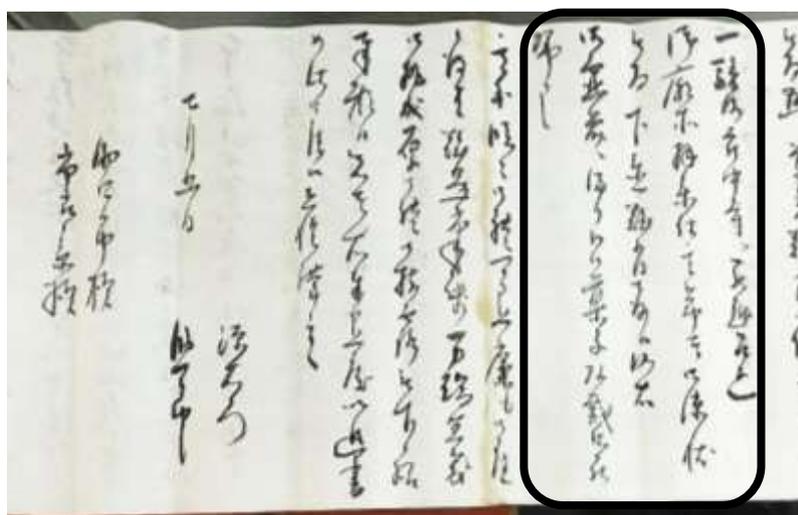
二つある干菓子のうち、一つは割れずにきれいに残っています。

資料館では、徳川家の家紋である三葉葵をかたどった干菓子を展示しています。これは昭和 30 (1955) 年に、三原市所蔵の「川口家文書」の中から見つかりました。川口家は江戸時代に「三原西町」(本町から西町辺り)を整備し、酒造業を行っていた家です。

一緒に見つかった手紙や旅日記から、この干菓子は文化 15 (1818) 年に、川口常次郎という人物が江戸からの帰りに、駿府(現在の静岡県)の華陽院というお寺をお詣りし、頂いたものと分かりました。華陽院は、徳川家康が幼いころ、祖母であるお留の方と過ごしたお寺です。川口家の祖先がお留の方と結婚していたという関係もあり、常次郎は華陽院に立ち寄ったのでしょ

この干菓子は旅日記の日付から、手に入れた時代がはっきり分かっています。江戸時代の和菓子は全国に数点残っていますが、資料館の資料は年代が分かる日本最古のものではないかと思われます。

直径 6.5cm, 厚さ 1cm ほどの小さな干菓子ですが、三原の町や人の歴史を今に伝えると同時に、和菓子の歴史においても貴重な資料です。(次号に続きます)



一駿河府中寺へ罷越乍恐
御廟所拝参仕其節者御添状
被為下置難有奉存候仍右
御霊前へ備り候御菓子頂戴仕罷
帰申候

手紙のこの部分に、府中寺（華陽院のこと）にお詣りしたことや、
御霊前ごれいぜんにあったお菓子を頂いて帰ったことが書かれています。

(くずし字を直したもの)

～和菓子まめ知識～

毎年6月16日は「和菓子の日」です。

嘉祥元(848)年6月16日、当時の天皇が16個のお菓子やお餅を神様に供えたことがきっかけです。

この歴史を語り継ぐため、昭和54(1979)年に全国和菓子協会が制定しました。

資料館の開館時間が変わりました。

開館時間 10時～16時

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/kyouiku/103968.html>

《編集後記》

令和4年度のテーマは「和菓子」です。

和菓子に関する資料の紹介のほか、和菓子のまめ知識もご紹介したいと思います。(み)

三原市歴史民俗資料館

三原市円一町 2-3-2

TEL0848-62-5595

令和4年6月3日発行

